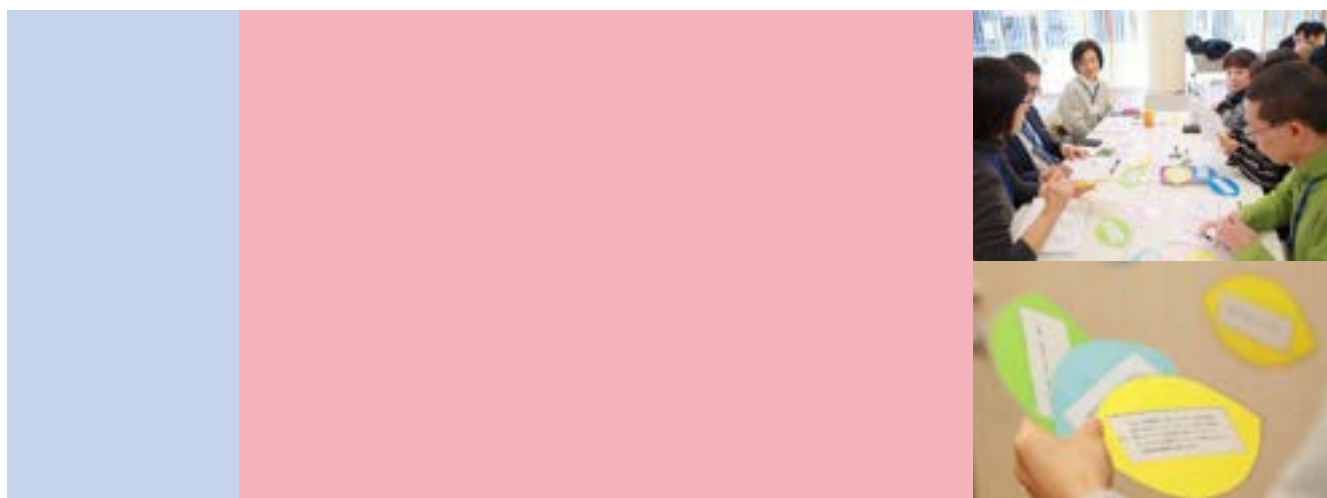




居場所に対話の機会を！
WAM助成
co-machi対話プロジェクト
実施報告書



令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

目次

第1章 事業概要

1. プロジェクト概要	5
2. 実施団体概要	6
3. 実施事項及びスケジュール	7
4. 実施体制と体制構築におけるポイント	7
5. 連携団体概要	8

第2章 事業方針

1. 葉っぱの「声」のアップデート	12
2. 「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座	14
3. 「3枚の葉っぱ」ウェブページの開発	18

第3章 事業の内容・成果および支援を得た気付き

1. 葉っぱの「声」のアップデート	19
2. 「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座	22
3. 「3枚の葉っぱ」ウェブページの開発	30

第4章 各地域における3枚の葉っぱファシリテーター養成講座の実施

1. 滋賀県長浜市：ながはま市民協働センター	33
2. 神奈川県川崎市：特定非営利活動法人みどりなぐらし	34
3. 沖縄県北中城村：ベーカリーカフェ cottonowa	35
4. 兵庫県西宮市：特定非営利活動法人 a little	36
5. 京都府京都市：京都市総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当	37

第5章 「3枚の葉っぱ」ウェブページの開発

1. システム構成	38
2. サイトマップ	38
3. 操作方法	39

第6章 まとめと今後に向けた考察

1. ワークショップ構成について	40
2. ファシリテーションスキルについて	41
3. 葉っぱのアップデートについて	42
4. ウェブページの機能拡張について	43
5. ウェブページの維持継続について	44

図表目次

図

図1. プロジェクトコンセプト	5
図2. 実施団体概要	6
図3. 参加者属性	25
図4. 「3枚の葉っぱ」体験の満足度	25
図5. 「ファシリテーションの基礎」講義の満足度	25
図6. 「3枚の葉っぱ」講義の満足度	26
図7. 「3枚の葉っぱ」設計演習の満足度	26
図8. 「3枚の葉っぱ」進行演習の満足度	26
図9. 「居場所における対話」への意識変化	27
図10. 「3枚の葉っぱ」開催意向	27
図11. 「3枚の葉っぱ」開催の想定シーン	27
図12. サイトマップ	38
図13. 操作方法	39
図14. ファシリテーションスキルの養成を通じた地域内での対話の広がり	41

表

表1. プロジェクトスケジュール	7
表2. 連携団体概要	8
表3. 声の選定	20
表4. ウェブページの構成要素	38

1. プロジェクト概要

本事業の概要

私たちこまちぷらすは、こまちカフェという居場所を運営しながら、「子育てがまちの力で豊かになる社会」を目指して活動しています。そして、居場所にたどり着くだけでなく、そこで自分の思いを言葉にし、誰かの思いに触れられるような「対話」の機会がそこにあることが大切と考え、こまちカフェにおいて様々な「おしゃべり会」を行ってきました。自分の思いをゆっくりと言葉にして交わしあう中で、子育てにまつわるちょっとした心配事や辛かったこと、嬉しかったことなどを話し合い、「聴いてもらえた」「話せてスッキリした」「自分だけじゃなかった」という心強さや安心を得るような力が「対話」にはあると考えています。



そんな「対話」のひとつの形として、私たちこまちぷらすでは「3枚の葉っぱ」というワークショップを開催してきました。まちの誰かの「声」が載った葉っぱ（カード）をツールとし、対話を進めるワークショップです。葉っぱの声に触れることで、自分の思いを言葉にしやすくなり、時に葉っぱの声から新たな気づきを得ることや、自分の中の気持ちに気づきながら、対話を進めます。

そのような対話の機会が居場所の中にあるだけでなく、居場所の外でもまちの様々な方どうしが互いに関心を寄せ合い、互いの声に触れる機会として増えていくことも、私たちこまちぷらすが目指している「子育てがまちの力で豊かになる社会」になるためには、重要と考えております。

本取り組みにおいては、妊娠、出産、育児について、母親（父親）がひとりで抱え込むことなく、地域のつながりの中で孤立せずに子育てができるよう、「対話の場」が様々な居場所に広がることを目指し、

- ①対話のワークショップ「3枚の葉っぱ」で使用する「当事者の声」の内容のアップデート
- ②対話のワークショップ「3枚の葉っぱ」ファシリテーターの養成講座の組み立てと実施
- ③ワークショップのオンラインでの開催を可能にするツール（ウェブページ）の作成

の3つに、日本国内の様々な地域の団体の皆様との連携のもと取り組みました。

居場所やまちの中での「対話の機会」が増える

当事者どうし
居場所での関わりの中で
ケアしあう

「妊娠・出産・子育て
における不安の
切れ目のない解消」へ

まちの中で互いに
関心を寄せ合う

図1：プロジェクトコンセプト

2. 実施団体概要

実施団体: 認定特定非営利活動法人こまちぷらす

神奈川県横浜市戸塚区を拠点に、「子育てがまちの力で豊かになる社会」を目指して活動しています。居場所としての「こまちカフェ」の運営を軸に、カフェにおける様々なイベントの実施や、まちの多様な方々との協働事業等に取り組んでいます。



活動開始: 2012年2月

スタッフ人数: 41名 登録ボランティア: 198名 (2021年3月末時点)

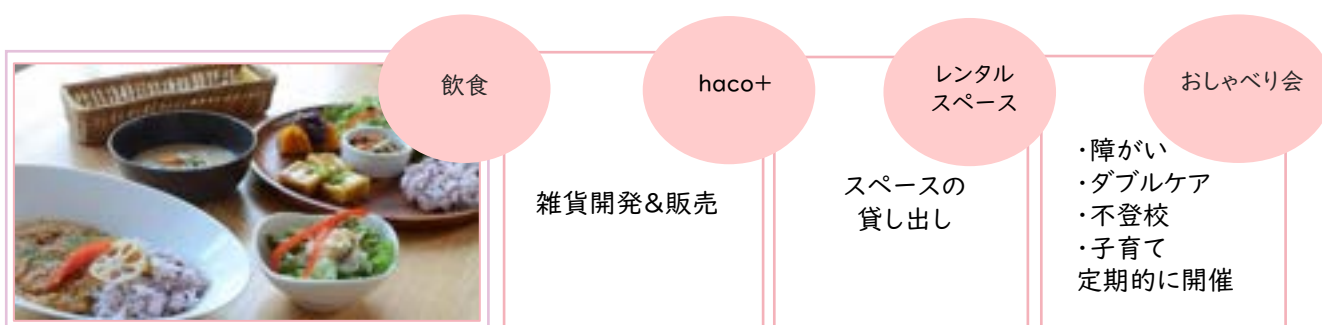
所在地: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2階

団体HP: <https://comachiplus.org/>

こまちぷらすHP



こまちカフェHP



ウェルカム
ベビー
プロジェクト

ヤマト運輸(株)との協働プロジェクト
出産祝いをつくり届ける過程で
子育てへの理解を深める



とつか
フューチャー
セッション

まちの多様な方々との「対話」
から未来を考える



商店会

「戸塚宿ほのぼの商和会」
事務局

3. 実施事項及び実施スケジュール

以下のスケジュールにて、①葉っぱの声のアップデート（収集と選定）、②ファシリテーター養成講座の開催
③葉っぱのウェブページの作成に取り組みました。

時期	①葉っぱの「声」のアップデート	②ファシリテーター養成講座	③ウェブページの作成
2020年 4-5月	・連携団体の検討	・コンテンツ作成委託先打診	・カードからオンラインへの計画変更検討
6-7月	・葉っぱのジャンルの設定 ・連携団体への打診 ・アンケート作成	・講座連携先の調整 ・講座内容、時期の検討	・オンライン化の手段検討
8-9月	・アンケート実施 ・声の選定会実施 ・葉っぱカード作成	・研修日程確定 ・連携先との打ち合わせ	・業者の選定 ・ウェブページの設計と開発
10-11月		・養成講座コンテンツ作成 ・養成講座@滋賀県長浜市 ・養成講座@沖縄県北中城村 ・養成講座@川崎市	・葉っぱのページ試用期間 (オンラインおしゃべり会の開催)
12月- 2021年 1月		・養成講座@沖縄県北中城村 ・京都市職員向け体験会	
2-3月		・養成講座@兵庫県西宮市 ・養成講座@京都市京都市	・葉っぱのウェブページ完成
3/28 実施報告会			

表1：プロジェクトスケジュール

4. 実施体制と体制構築におけるポイント

認定NPO法人こまちぷらすの代表と居場所づくりコーディネーター2名の計3名に加えて、本事業専従の学生アルバイトを雇用し、様々な連携団体との連絡調整や、資料の作成、講座の開催等を4名のスタッフで担当いたしました。

また、本事業においては、次頁で紹介する連携団体との広域的なネットワークのもと取り組みを進めてきました。そうすることにより、様々な地域でその地域で活動する団体や個人の活動の中に「3枚の葉っぱ」が取り入れられ、対話の場が増えていくことを目指しました。



5. 連携団体概要

本取り組みは、独立行政法人福祉医療機構の助成事業の「全国的・広域的ネットワーク活動支援事業」として、全国の様々な地域への広域的な普及・充実等を図り、複数の団体との連携のもと、相互にノウハウを共有しあいながら取り組みました。

葉っぱの声の収集と選定、「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座、葉っぱのウェブページ作成のそれぞれの実施において、下記の団体との連携のもと進めてまいりました。

	団体名(敬称略・順不同)	活動(拠点)地域	連携内容	
①	特定非営利活動法人 孫育て・ニッポン	全国	葉っぱの声の収集と選定	ファシリテーター養成講座の開催
②	特定非営利活動法人 Sharing Caring Culture	神奈川県横浜市		
③	横浜ダディ	神奈川県横浜市		
④	ながはま市民協働 センター	滋賀県長浜市		
⑤	特定非営利活動法人 みどりなぐらし	神奈川県川崎市		
⑥	cotonowa	沖縄県北中城村		
⑦	特定非営利活動法人 a little	兵庫県西宮市		
⑧	京都市総合企画局 総合政策室SDGs・市民協働推進担当	京都府京都市		
	団体名(敬称略・順不同)	連携内容		
⑨	株式会社 イミカ	ファシリテーター養成講座 コンテンツ作成		
⑩	株式会社 ウェルモ	葉っぱのウェブページ開発		

表2:連携団体概要

連携団体プロフィール

①特定非営利活動法人 孫育て・ニッポン

「家族で深めよう、地域に広げよう子育て、孫育ての和」をミッションに、子育て世代と祖父母世代が笑顔で子や孫に関わり、子どもたちが健やかに育つ社会になるよう、全国各地で孫育て、たまご(他孫)育て、多世代交流の居場所づくりなどの講演、プロジェクトを行う。「まご」「子ども」をきっかけに、多世代のつながりをつくることで、違う世代が助け合い、暮らしやすい地域作りを目指していきます。

団体HP



②特定非営利活動法人 Sharing Caring Culture

「多種多様な人たちと地域をつくる」取り組みとして、任意団体として活動を始めた2014年より、主に横浜市北部地域に在住の子育て中の外国出身者とともに、子育て情報支援事業や多文化交流事業を実施しています。

あらゆる人たちが公平に、それぞれの独自性と潜在能力を最大限に地域で発揮できるプラットフォームとして、特に外国出身の母親の地域参画を応援し、個性を生かしたまちづくりを目指して活動しています。

団体HP



③横浜ダディ



2012年4月に設立された、横浜市を中心に活動するパパサークルです。現在メンバーはおよそ50人で、コアメンバーは20人程度います。パパの座談会や子育て情報共有、ピクニックなどのイベントを行っています。

”瞬発力よりも持続力”を大切にしている、ただ集まって喋ることも大事と考え、ゆるくマイペースな活動を心がけており、誰でもウェルカムな入りやすい環境を目指して活動しています。

団体Facebook



④ながはま市民協働センター

市民みんなの活動の次の一步を応援する場として、長浜市市民活躍課内に設置されました。「ひとづくり、つながりづくり、ひろがりづくり」をテーマに、市民活動をやってみたい人、市民活動団体や地域づくり協議会（広域の自治会のような地縁団体）など非営利活動に関する相談対応、機関紙やSNS等での市民活動に役立つ情報の発信、市民同士がつながりあえるイベントの運営などを手掛けています。

団体Facebook



団体HP



⑤特定非営利活動法人 みどりなぐらし

子育て世代の方に、心豊かなぐらしの提案をしています。次世代を担う子どもたちにみどりあふれる地球を残すため、今のぐらしから身の丈に合わせ、半歩たげても踏み出してみませんか?と発信しています。

つくること食べること、エコなぐらし「たのしくおいしく」がモットーです。川崎市「地域子育て支援センター」を2か所委託運営し、孤立しがちな子育て層の不安の解消、親子が気軽に集える居場所づくりを目指しています。

団体HP



⑥cotonowa

沖縄県北中城村にある、小さなベーカリーカフェです。代表が以前福祉の分野で働いていた経験から、自身の営むカフェを居場所作りの場にしたいと考え、育児に励むお母さんや、様々な命に向き合う方々を対象にワークショップや勉強会を行ってきました。

また、地域の助産師さん達と共感し、共に多くの活動を行っています。美味しいものに囲まれながら、人と人が少しずつ支え合い「ゆいまーる=お互い様」の精神で、過ごせる居場所でありたいと思っています。



団体Facebook



⑦特定非営利活動法人 a little



団体HP



阪神間で妊娠期を含む子育て期を過ごす人々が中心となり、地域とつながり、しんどさを分かち合い、助け合える関係を作っていくために、家事と育児を地域で助け合う「地域サポート」事業を行っています。

他者を認め自分を発見するための「学習会・講演会」、また多世代が交流し合い、ありのままの自分でいられ、役割を見つけられる食事会やおしゃべり会などの「地域交流・つどい場」を開催していて、すべての人が生涯を通して自分らしく生きられる社会づくりに寄与することを目的としています。

⑧京都市総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当

SDGsの実現や人口減少社会等に対応していくためには、異なる立場の人々が課題を共有し、新たな行動を生み出していくこと、そして、そうした行動を持続可能に支援し合える関係を築くことが必要だと考えていて、京都市では、それらに必要な「対話」を創出するスキルを身につけた市職員を育成しています。

今後は、プラットフォーム同士が連携し、まちづくり活動を支援し合える関係構築にも取り組みたいと考えており、多様で持続可能な京都を皆様とともに作ってまいります。

団体HP



⑨株式会社イミカ

自らが問題発見や解決を行うことを伴走支援する、プロセスコンサルティング事業を行っています。

(代表/原田博一氏 プロフィール)

1999年富士通入社、2007年より富士通研究所研究員、2017年より現職。ソフトウェアエンジニアを経て、インタビュー技術開発やフィールドワークのような定性調査等に従事。人や組織の思いや都合を把握したうえで、効果的に課題解決に取り組むための関係構築を支援、ワークショップのデザインやファシリテーションの講師としても活躍。

イミカ
IMIKI IS THE SOUL OF MIT



⑩株式会社ウェルモ



社会課題をICTと先端技術の力で解決することをミッションに掲げる、ケアテックカンパニー。

ケアプラン作成支援AIの「ミルモぷらん」、介護の地域資源情報を集約するプラットフォーム「ミルモネット」、児童発達支援・放課後等デイサービス「UNICO(ユニコ)」の事業を展開しています。

団体HP



この章では、葉っぱの「声」アップデート、「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座、「3枚の葉っぱ」ウェブページ開発のそれぞれの取り組みの方針としたことをお伝えします。取り組みの詳細や結果については、次の3章でお伝えいたします。

1. 葉っぱの「声」のアップデート

こまちぷらすではこれまで、横浜市の施策に寄せられた「パブリックコメント」や独自アンケート等にて集めた声で葉っぱを作り、様々な対話の場で使用してきました。本事業に取り組むにあたり、既存の葉っぱにはない声を新たに集めることで、より多様な「子育てにまつわる声」を、様々な地域に広げていくことを目指しました。

葉っぱができるまで

パブリックコメントやアンケートで集めた多くの声から、多様な立場の方による「選定会」での選定により、葉っぱに載せる声を選びます。象徴的な声や当事者ならではの声など、当事者、支援者、行政、企業等、そのテーマに近い方と遠い方の両方の視点から選び、選ばれた声をこまちぷらすの登録ボランティアの方々と一緒にカードにしてきました。今回も同様にして、「収集」と「選定」を連携団体の方々と一緒に行いました。

パブリックコメントや
アンケートから収集



多様な立場の人による
選定会の実施



葉っぱの形のカードに

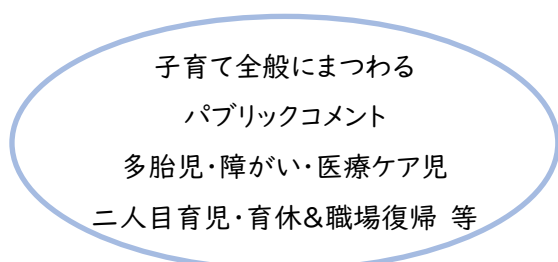


多数決ではなく
多様な視点から

新たに集めた声

こまちぷらすで既に持っていた、「子育て」「障がい」「介護」のパブリックコメントから作られた葉っぱに加え、子育てに関連する様々なテーマの声もアンケートで集めてきましたが、本事業では、既存の葉っぱにはない声を連携団体のご協力のもと集めることにしました。

これまで持っていた「声」



新たに収集

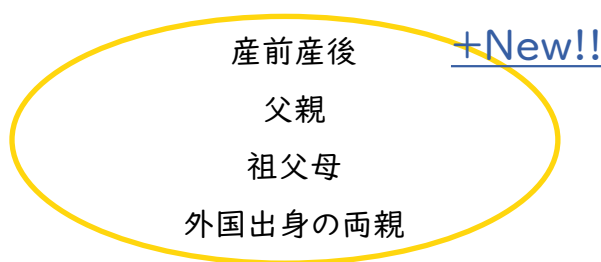
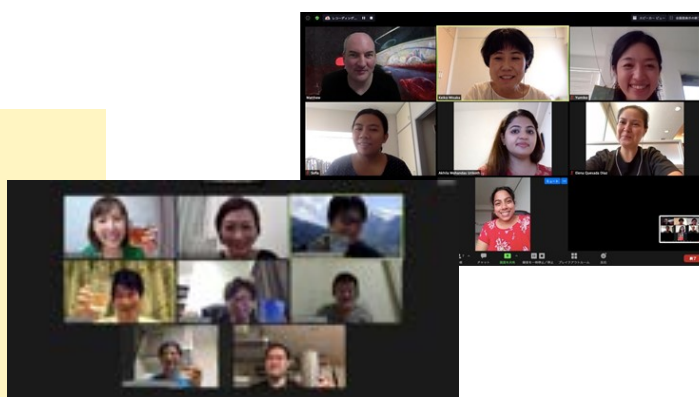


図2: 葉っぱの「声」のアップデート

声の収集方法

「産前産後」「父親」「祖父母」「外国出身の両親」を新たに収集するにあたり、アンケートを紙とオンラインの両方を用意した他、アンケートでは引き出しにくい話については、オンライン座談会を開催し、会の中の発言から葉っぱの候補となる声を収集しました。

アンケートの質問項目は対象別に異なるベース案をこまちぶらすで作成し、配布元となる連携団体との相談の上、団体別にアレンジしたものを対象者に配布しました。



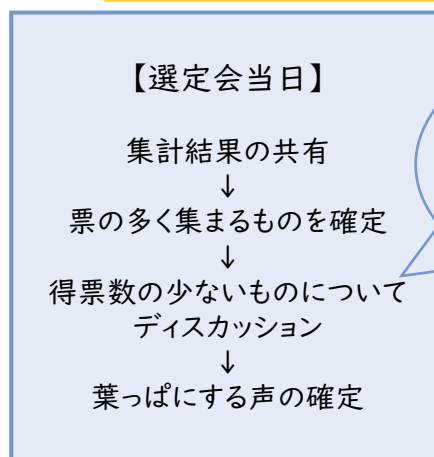
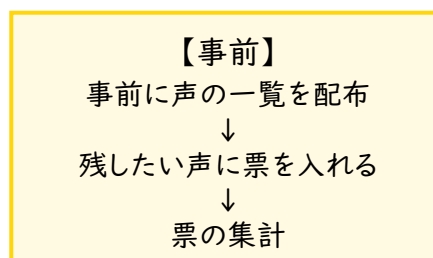
「外国出身の両親」と「父親」の声を集める座談会については、連携団体に参加者への呼びかけを依頼し、オンラインにて開催。こまちぶらすスタッフも同席し、進行役からの投げかけを踏まえて意見交換を行いました。

声の選定

集められた多くの声から、葉っぱに載せる声を「選定会」を開催して決定しました。多くの声から、対話のきっかけとなるような声や、相互理解につながる声を、多様な視点から話し合って選びました。

選定会は、声の収集に関わった連携団体の他、子育て当事者等にも参加していただき、「産前産後」と「父親・祖父母・外国出身の両親」で1回ずつ、計2回開催いたしました。

選定会の流れや、選定のポイントについては右図の通りです。



声の背景
同様の声の有無
当事者ならではの視点
対話のきっかけ
新たな気づき

2. 「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座

「3枚の葉っぱ」の対話のワークショップが様々な地域で開催されるよう、葉っぱの声のアップデートと共に、ワークショップを開催する「人」が各地で育っていくことが必要と考え、ファシリテーター養成講座のコンテンツ作りと講座の開催に取り組みました。

「3枚の葉っぱ」について

日々の暮らしに関する市民の声が書かれた複数枚のカードを使った、相互理解をベースとした対話（話し合い）の方法のひとつです。子育て中の親同士はもちろん、シニア、学生、支援者、行政職員、企業など様々な立場・属性・年齢の人がテーマに依らず、目的に応じて混ざりながら実施できます。

今回は、居場所における母親どうしの対話と、まちの中での多様な方同士の対話の両方に、この「3枚の葉っぱ」が取り入れられよう、様々な連携団体と養成講座の開催を実施しました。

葉っぱ（当事者の声）を対話のワークショップで使用する効果は以下の通りです。

- ・言語化しにくい/言いにくいことも「誰かの声」を借りられる
- ・議論の要素が含まれている
- ・自分と同じ事を考えている人がどこかにいるという連帯感や心強さが得られる
- ・自分にはない視点や対極の視点からの言葉に触れることができる

葉っぱの内容例

子どもについて感情的に
怒ってしまうので、
不安に感じる場合があります。

近所で、同じような世代との
繋がりがあると頼り頼られて
いけると思う。
共働きだと地域に
リーチする機会があまりない。

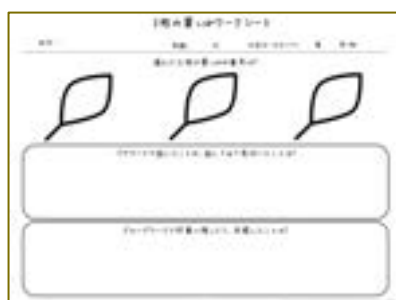
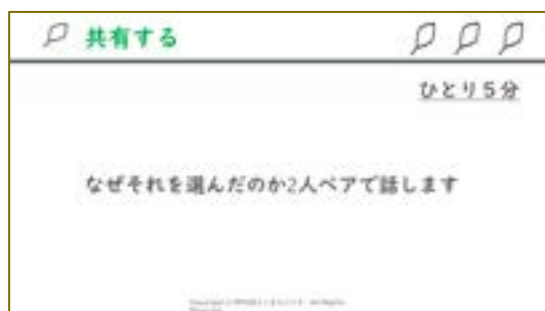
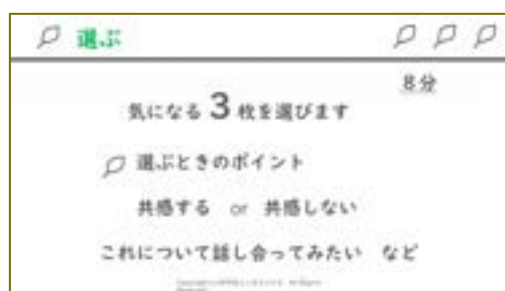
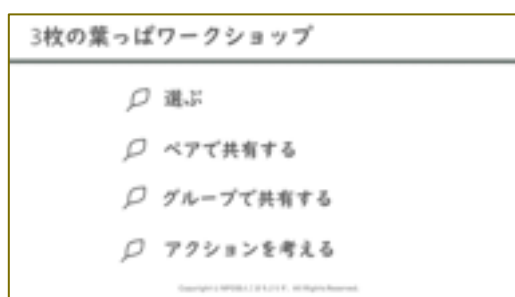
自分の子どもに障害があることをオープンにするのは勇気がいる一方で、
同じような立場の人とつながりたい
気持ちがある。知り合える場所が
あったらいいと感じる。

双子(三つ子)は外出の時の荷物が
とても多く、出かけた先の心配よりも
まず、「出かけること」自体が大変。

「3枚の葉っぱ」の流れ

「3枚の葉っぱ」は、様々な葉っぱの声に触れながら、「選ぶ」「選んだ気持ちをペアで話共有」「ペアで話した気づきをグループで共有」を進めながら、対話と内省を繰り返すことで、相手への理解と自分の気持ちへの理解を深めるワークショップです。

なお、ペアワークの時間では、ひとりひとりの話す時間をしっかりと確保し、聞き手となる方にはグラウンドルールとして、相手の話を遮らず、否定せずに最後まで聞くことをお伝えするなど、安心して話せる雰囲気づくりを大事にしています。



開催人数等によって進行内容はアレンジをしますが、ペアワーク→グループワーク→全体共有と徐々に視野を広げながら、最後に全体を振り返り、「気づきとアクション」を考えます。

「3枚の葉っぱ」開催実績とご感想



4-5名規模での母親同士のおしゃべり会や、50名規模での多様な方々とまちの未来を考えるワークショップの他、支援者向け研修、企業向け研修等、これまで様々な場面で開催してきました。子育て当事者、行政関係者、支援関係者、市民活動団体、企業等、これまで述べ900名を上回る方に参加していただきました。

これまでご参加くださった皆様からは、以下のようなご感想をいただいています。

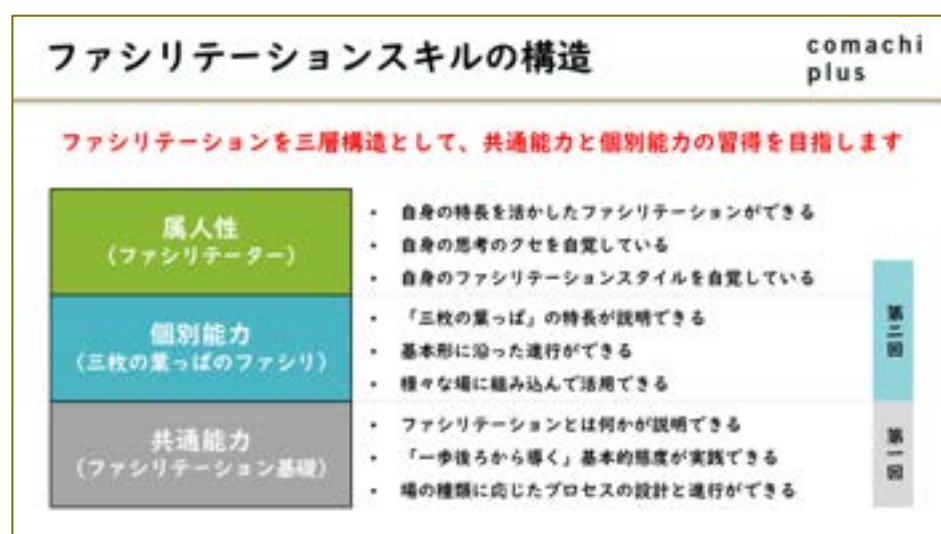
話のきっかけとして葉っぱがあることで、言葉にしにくい自分の気持ちを話すことができた。

葉っぱを通して、普段聞けない声を知ることができ、また、その立場に立った考え方など、気づきが得られた。

何気ない雑談やおしゃべりだと悩み事や深い話を切り出しにくいのが、葉っぱがあることで短い時間でも深い気持ちを話すことができた。

ファシリテーターに必要なスキル

「3枚の葉っぱ」のワークを、安心な対話の場として開催するには、ファシリテーションの基礎能力を理解した上で、本ワークの特長をおさえ、基本形に沿った進行と場に応じた活用ができるスキルが必要となります。養成講座では、受講された方が、この基本能力（1層部分）と「3枚の葉っぱ」の進行に必要な個別能力を身につけられることを目指しました。



ファシリテーター養成講座

ファシリテーター養成講座を開催するにあり、講座を通してお伝えしたいファシリテーターに必要な姿勢や具体的な進行のポイントを整理することから始めました。その整理と講座のコンテンツの作成においては、株式会社イミカの原田氏に協力をいただきました。

養成講座は「体験」「講義」「演習」の3つから構成され、まず始めに「3枚の葉っぱ」を体験し、そのあとにファシリテーションの基礎を学び、「3枚の葉っぱ」の進行のポイントを学び、最後は演習として、実際にワークショップの設計と進行を参加者自身で行いました。

「3枚の葉っぱ」の進行を担当したことのあるこまちぶらすスタッフ全員にアンケートを行い、ワークショップ開催時の工夫ポイントや、困ったことや迷ったこと、開催される方へのアドバイス等を集めました。共通して必要なスキルから、臨機応変な対応や個別の工夫まで、実際に開催される際のヒントとなるよう、講座の中でお伝えできるよう教材を作成いたしました。

養成講座は、3時間×2回の計6時間ほどのコンテンツとし、2日に分けての開催、1日での開催の双方が可能な形に致しました。

講座のゴール

- ファシリテーターに必要な姿勢を理解する
- 「3枚の葉っぱ」ワークの効果を知る
- 「3枚の葉っぱ」ワークの構成を理解し、目的や状況応じたアレンジがあることを知る
- 「3枚の葉っぱ」の進行ポイントを知る

→ 上記の基本をもとに、実践を繰り返すことで身に付けられるようにする。

講座の全体像

【1日目】

自己紹介♪

こまちぶらすについて

本取り組みについて

体験：「3枚の葉っぱ」

ワーク

講義：ファシリテーションの基礎

【2日目】

講義：「3枚の葉っぱ」について

演習1：WSの設計

演習2：進行

3. 「3枚の葉っぱ」ウェブページの開発

「3枚の葉っぱ」の対話のワークショップが様々な地域で開催されるよう取り組みを広げる一方で、対面でのイベント開催が難しい社会状況を受け、当初の計画を変更してウェブページの開発にも取り組むこととしました。

開発の経緯と目的

本事業に取り組んだ2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、対面で人が集まる形でのイベントに制限がかかる状況に直面した1年でした。これまで対面でのみ開催してきた「3枚の葉っぱ」についても、カードを手に取り合うこと、参加者どうしが向き合って行うペアワークやグループワークの時間を多くとるワークショップであることから開催が難しくなりました。

一方で、子育て中の母親が集える公共の施設等も閉館が続いたことで、このコロナ禍に妊娠、出産、子育てをされている方々が、家族以外の人と話す機会がほとんど無くなり、孤立した子育てを余儀なくされる家庭が増えてきている様子もうかがえました。

そこで、葉っぱの声をウェブ上で閲覧可能にすることで、家で一人での時間でも誰かの声に触れられるようになること、そして、オンライン上での「3枚の葉っぱ」のワークショップを開催可能にし、オンライン上での対話の機会につなげることを目指しました。

ウェブページのイメージ

ウェブページを作成するにあたり、想定した対象者や大事にしたページのイメージ等は以下の通りです。

- 主たる対象者：子育て中の方、子育て支援に携わる方 + 対話や孤立しない子育てに関心のある方
- 活用場面：子育て中の母親どうしのおしゃべり会、多様な立場の方のワークショップ
 - ※イベントの時間帯以外でも一部閲覧可能にしておくことで、在宅時等に声に触れ、声を残せるように設定。
 - ※スマートフォンでもPCでも閲覧可能
- イメージ：見ていて明るい気持ちになるような色合いやデザインを重視
- お子さんを抱っこしながら等でも見て選べるような読みやすさ
- 今回作成する葉っぱの声と既存のものより、表示する葉っぱを選択できる
 - そのときに読み切れる枚数と、会のテーマにあった葉っぱを使用できる

上記を踏まえ、株式会社ウェルモの協力のもと、ウェブページの設計から取り組みました。



この章では、各取り組みの詳細と成果、そこからこまちぷらすが得た気付きについてお伝えします。

1. 葉っぱの「声」のアップデート

取り組み内容と成果

アンケートによる声の収集

こまちぷらすの既存の葉っぱには無い、「産前産後」「父親」「祖父母」「外国出身の両親」のジャンルの声をアンケートと座談会等で集めました。対象に応じて、アンケート配布元となる連携先と相談の上作成し、以下の概要でアンケート調査を実施いたしました。

【アンケート実施概要】

■目的

子育てにまつわる「産前産後」「父親」「祖父母」「外国出身の両親」それぞれの立場での思いや経験を集める。

■実施方法

オンラインフォームへの入力を各団体より対象者に呼びかけ

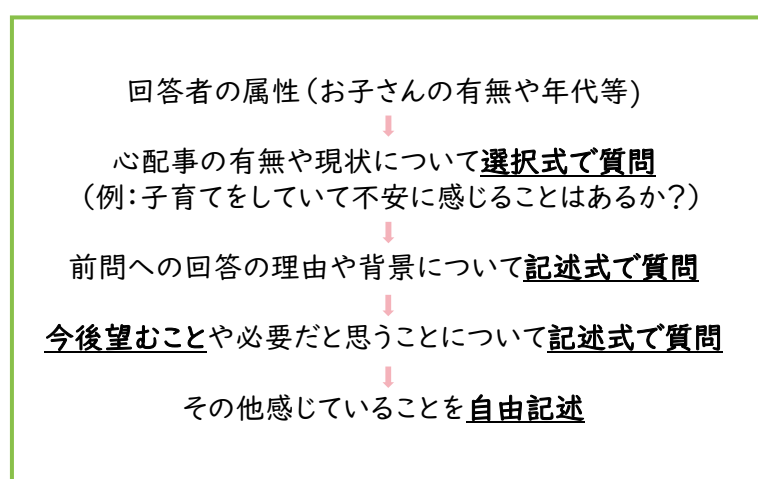
※一部、オンラインフォームと同内容の紙を配布

■実施期間

2020年7月中旬～8月上旬

【アンケートの構成】

具体的な質問項目は対象ごとに異なるが、全アンケートに共通して



という流れで、「閉じられた質問と開かれた質問」「心配事と希望」それぞれ両方を組み合わせた内容で作成しました。

現在、お子さんの子育てにおける自身の関わりについて以下の中から選んで
はまるお気持ちをお教えてください。
(複数回答可) *

☐ 満足いく関わりができています
☐ 「関わっているが」もっと関わりたい
☐ 思うように関わっていない
☐ 負担感を感じている
☐ その他

上記の回答で満足いく関わりができて
いる「以外」のお気持ちをあげていただいた
理由やエピソードについてお教えてください。
(満足いく関わりができていない
と回答された方は、「なし」とご記入
ください) *

回答を入力

アンケートフォーム例

声の選定

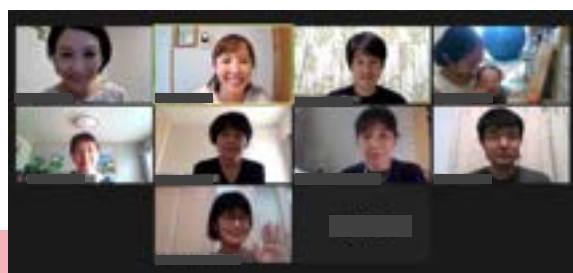
アンケート等により集めた声から、葉っぱに載せる声を「選定会」にて選びました。選定会は、「産前産後」1回、「父親・祖父母・外国出身の両親」1回、それぞれ2時間ほどかけてP12に記載の流れで行いました。



産前産後・選定会

開催日：2020年8月18日

参加者：ながはま市民協働センター・NPO法人みどりなくらし・NPO法人alittle・cotonowa・ウェルモ・こまちぷらす より計8名



父親、祖父母、外国出身の両親・選定会

開催日：2020年8月20日

参加者：ながはま市民協働センター・横浜ダディ、NPO法人SharingCaringCulture・NPO法人孫育てニッポン・こまちぷらす理事・イミカ 計9名

それぞれのジャンルでの声の収集方法・連携団体・集まった声等は以下の表のとおりです。

ジャンル	収集方法	連携団体・協力	集まった件数	葉っぱの数
産前産後	ウェブアンケート 紙アンケート	ながはま市民協働センター みどりなくらし cotonowa a little	543	70
父親	ウェブアンケート 座談会	横浜ダディ ながはま市民協働センター	110	41
祖父母	ウェブアンケート 紙アンケート 連携団体より提供	孫育て・ニッポン 地域の方々	106	38
外国出身の両親	座談会 連携団体より提供	Sharing Caring Culture	85	27

※上記に加え、こまちぷらす既存の葉っぱより多胎児・医療ケア児・障害等につながる声32枚を追加。

表3：声の選定

選定した声をカードとウェブページへ

選定後の208件の声で葉っぱの形のカードを作成し、5カ所で開催した養成講座にて使用した他、希望の連携先に貸し出しも実施しました。また、葉っぱのウェブページにも掲載し、オンラインワークショップでも使用されました。



葉っぱのアップデートを通してこまちぷらすが得た気付き

声を集める手段を多様を持つ

今回の収集では、連携団体からの提案によりアンケートに加えて座談会を実施しました。アンケートには本音が書きにくいことや、誰かと話しながら思い出される自分の思いや経験があるという理由から提案いただきましたが、どちらの座談会もとても気付きの多い時間になりました。

当事者どうしのおしゃべりの中だから導き出される言葉は、書面やウェブ上のアンケートだけでは拾えなかったものばかりでした。また、ウェブアンケートであっても、信頼できる相手やいつも通っている居場所からの依頼だからこそ書いてくださった率直なご意見も多々ありました。

相手の顔が見える、安心できる場だから語れる言葉を、居場所の安心感も守りながらいかに丁寧に拾えるかについては、今後考えていきたいところです。

また、今回の連携先のひとつであるNPO法人みどりなくらしでは、「3枚の葉っぱ」を活用したお話会で出た声で次の葉っぱを作るという取り組みをされました。

葉っぱから次の葉っぱが生まれるプロセスも、連携団体の皆さんと共有し、今後とも、多様な手段で声を集め、そして届けていくことを、こまちカフェでの取り組みも含めて考えていきます。



2. 「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座

取り組みの内容と成果

養成講座の組み立て

2章でもお伝えしたように、今回「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座を開催するにあたり、講座の全体設計から各パートのコンテンツ作成に株式会社イミカの原田氏のご協力のもと取り組みました。まず、養成講座のゴールを下記のように定め、そのために必要なことを講座内各パートでお伝えできるよう、講座の組み立てを行いました。

講座のゴール

- ファシリテーターに必要な姿勢を理解する
- 「3枚の葉っぱ」ワークの効果を知る
- 「3枚の葉っぱ」ワークの構成を理解し、目的や状況に応じたアレンジがあることを知る
- 「3枚の葉っぱ」の進行ポイントを知る

【「3枚の葉っぱ」の体験】

こまちぶらすスタッフのファシリテーションで「3枚の葉っぱ」ワークを体験後、感じたことや学びたいと思ったポイント等について振り返り。

【ファシリテーターに必要な姿勢】

イミカ原田氏による講義。ファシリテーションスキルの基本構造と、ファシリテーターに必要な基本姿勢を学ぶ。



【ワークの構成の理解とアレンジ】

こまちぶらすスタッフによる講義。ワークの構成全体による理解をした上で、自身の開催したい場に応じたアレンジあることを学び、時間配分等設計する演習も実施。



【進行ポイント】

「3枚の葉っぱ」ワークの実際の流れに沿って、進行する際のポイントについて説明。(詳細については次頁にて)



「3枚の葉っぱ」進行ポイントの整理

【スタッフの工夫の収集】

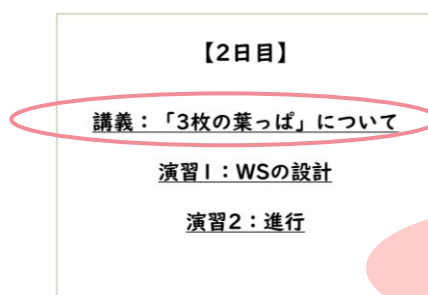
ファシリテーター養成講座の中で、「3枚の葉っぱ」の具体的な進行のポイントをお伝えするにあたり、それまで自分たちで行ってきたこのワークショップの進行のポイントを整理し、必要な姿勢や視点などを整理しました。

「3枚の葉っぱ」ワークショップを担当したことのあるこまちぷらすスタッフ10名にアンケートを実施し、それぞれが心がけていることや臨機応変に対応している工夫を集めました。

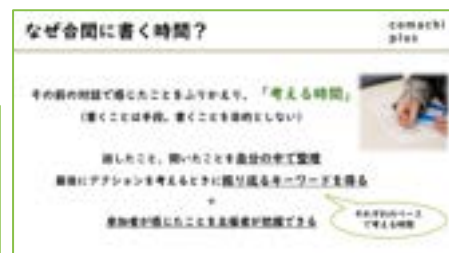
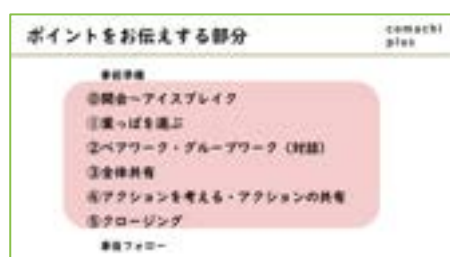
会によっては一人で担当するワークショップもあり、スタッフ間にお互いの工夫ポイントを知ることができる機会にもなりました。

10名の回答から見えてきたことをもとに養成講座における「進行ポイント」を作成した他、その他の細やかな工夫等についても「資料編」として参加者に配布しました。

進行ポイント入力フォーム



10名分の工夫から♪



養成講座の開催

ファシリテーター養成講座の開催にあたっては、5つの団体や居場所運営者にご協力をいただきました。こまちぷらすがもともとご縁のあった団体や、イミカ原田氏による紹介、今回初めてご一緒する団体の皆様それぞれに、本取り組みの目的や「3枚の葉っぱ」の趣旨を説明の上、養成講座の開催を提案いたしました。

連携先には、講座の開催場所の手配や参加者への声かけを担当いただき、こまちぷらすが養成講座の内容全般を担当する形で、2020年10月～2021年3月にかけて5カ所で「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座を開催し、計52名が参加しました。

子育て支援に関わる団体として、「NPO法人みどりなくらし」、「cotonowa」「NPO法人 a little」の方々と開催することで、子育て中の母親どうしの対話の場に活用していただくことを目指した他、まちの様々な立場の方どうしの対話を通じた相互理解につなげることも目指し、多様な方どうしの協働に携わる「ながはま市民協働センター」「京都市総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当」の皆とも講座を開催いたしました。（各地域での開催結果等については次の章でお伝えします。）



神奈川県川崎市
みどりなくらし



沖縄県北中城村
cotonowa



兵庫県西宮市
a little

当事者どうし
居場所での関わりの中で
ケアしあう

「妊娠・出産・子育て
における不安の
切れ目のない解消」へ

まちの中で互いに
関心を寄せ合う



滋賀県長浜市
ながはま市民協働センター



京都府京都市
市民協働推進担当

受講者アンケート(Googleフォームによるオンライン回答, n=23)

参加者属性

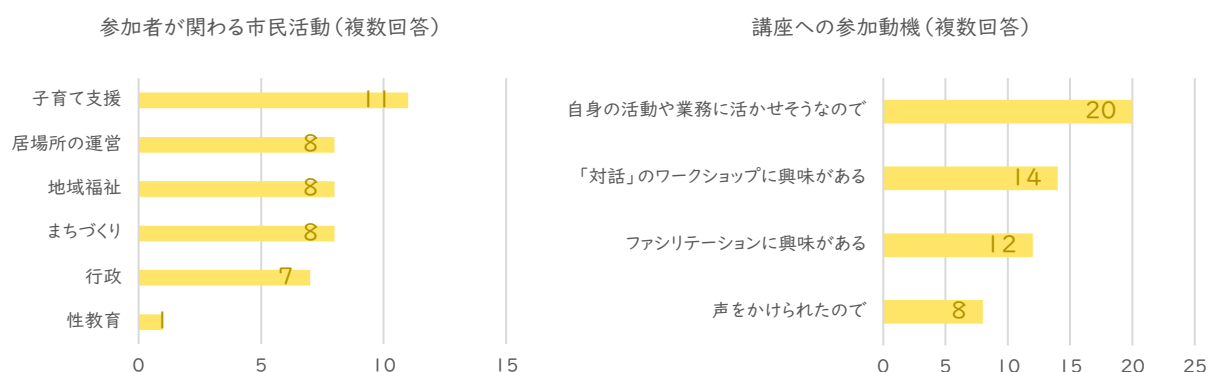


図3:参加者属性

講座参加者は、複数の市民活動に参加し(平均1.8)、大半が目的意識を持っていました(77%)。

「3枚の葉っぱ」体験の満足度

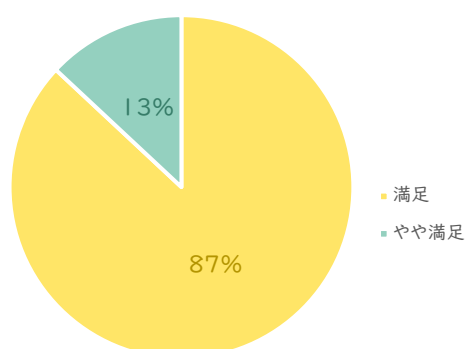


図4:「3枚の葉っぱ」体験の満足度

回答者の全員が肯定的評価をしました。その理由として、気づきや発見があった、誰かの声を使うことで他者とのつながりを感じたり心の支えを得た、他者の言葉から対話が生まれるアイデアに感動した、(葉っぱを使うことで)自分の考えをスラスラ話せた、などが挙げられました。

「ファシリテーションの基礎」講義の満足度

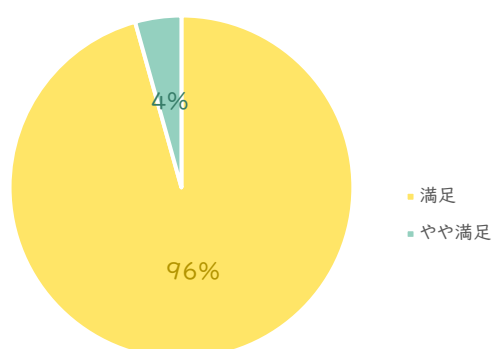


図5:「ファシリテーションの基礎」講義の満足度

回答者の全員が肯定的評価をしました。その理由として、ファシリテーターの基本的態度や場の種類への意識などを学べた、シンプル・具体的に伝えてもらい分かりやすかった、理論的・客観的・専門的な説明も含まれていて興味深かった、などが挙げられました。

「3枚の葉っぱ:ファシリテーション」講義の満足度

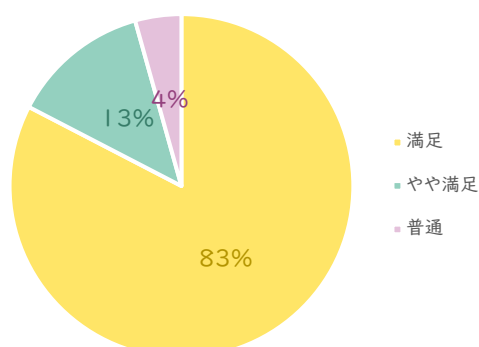


図6:「3枚の葉っぱ」講義の満足度

回答者の大半(96%)が肯定的評価をしました。その理由として、テーマや目的に応じた柔軟性があることが分かった、体験後で理解しやすかった、開発者の想いが感じられた、資料が充実していた、などが挙げられました。

「3枚の葉っぱ:ワークショップ設計」演習の満足度

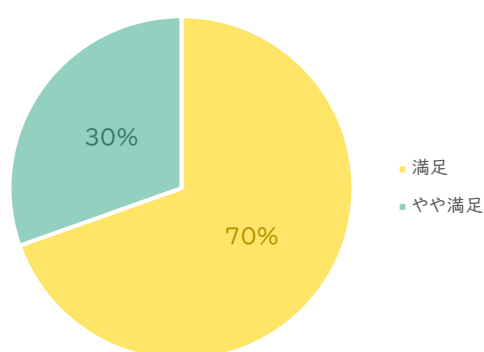


図7:「3枚の葉っぱ」設計演習の満足度

回答者の全員が肯定的評価をしました。その理由として、実際に想定したシミュレーションができた、自分でもできるかもしれないという自信に繋がった、などが挙げられました。一方、もう少し設計する時間が欲しかった、という要望も寄せられました(2件)。

「3枚の葉っぱ:ワークショップ進行」演習の満足度

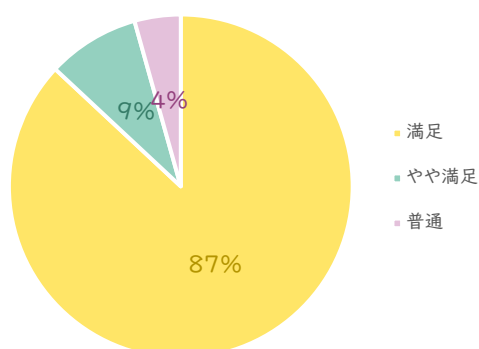


図8:「3枚の葉っぱ」進行演習の満足度

回答者の大半(96%)が肯定的評価をしました。その理由として、ファシリテーター役からは、実務での課題や進め方の注意点を把握できた、設計したことを実際に行う難しさを実感した、などが挙げられました。参加者役からは、相互フィードバックがよかった、率直に自分の気持ちを話せた、普段ファシリテーター役が多いので他の方を観察できた、などが挙げられました。

「居場所における対話」の重要性や可能性についての意識変化

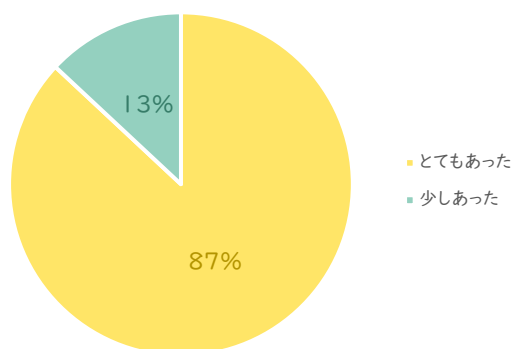


図9:「居場所における対話」への意識変化

回答者の全員が意識の変化を実感しました。その理由として、他者を尊重し自分を客観視することの大切さ、共通の経験を共感し合うことの大切さなど、対話を持つ本来の価値（相互理解）を再認識したことが挙げられました。

加えて、居場所における対話の重要性や可能性については、「ただ居場所を作るのではなく、しっか

り参加者の気持ちをくみ取れる居場所を作りたいと思いました」、「対話を通じて、その場そこにいる人を安心、安全と捉えることができること。会話でなく対話に発展させることで、自分の話だけでなく、他者の話を聞くことで気付きが深まること」、「不安や孤立を和らげるような気がします」といった、より質の高い居場所づくりには対話が効果的である、と考えるに至った様子がうかがえます。

「3枚の葉っぱ」を自身でも開催したい意向の有無

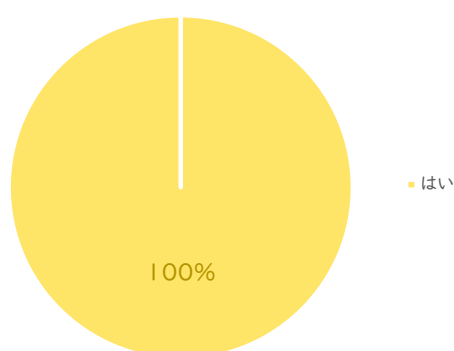


図10:「3枚の葉っぱ」開催意向

回答者の全員が自ら開催したい意向を示しました。受講を通じて、自身に関わる市民活動への活用可能性を強く感じたことが分かります。

「3枚の葉っぱ」を自身で開催する場合の想定シーン（自由回答、n=19）

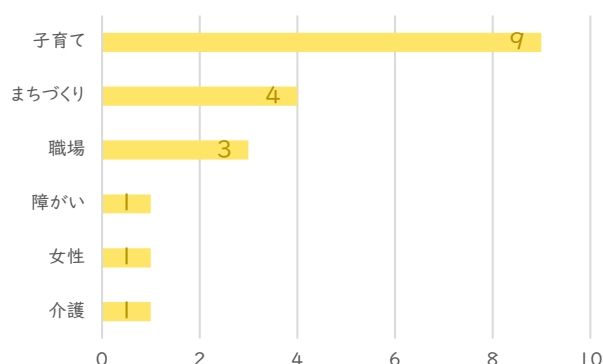


図11:「3枚の葉っぱ」開催の想定シーン

回答者のおよそ半数（47%）が、子育てに関するイベント等での活用を想定しました。前述の、講座参加者が関わる市民活動と比較すると、参加者は特に、子育てとの相性がよい（使いやすい）と価値判断した様子が見えます。これには、悩みを吐き出したり、想いを共有したりすることで、不安解消につながるといった参加者の直接的効果への期待があると考えられます。

養成講座の開催を通してこまちぷらすが得た気付き

受講者の属性とひろがり

今回の助成事業で目指したのは「妊娠・出産・子育てにおける不安の切れ目のない解消」であり、養成講座の実施においても、子育て支援関係者や居場所運営者に重点を置いて連携団体の選定や講座参加への呼びかけを行いました。結果的には受講者の半数程が子育て支援関係者や居場所運営者となりましたが、長浜市や京都市での開催においては、市民協働担当部署との連携であったこともあり、まちづくりに関わる幅広い立場の方にご参加いただきました。

幅広い立場の方のご参加により、子育てに限らない様々な困りごとを話し合う機会にも導入したいという声を多くいただくことになり、「3枚の葉っぱ」の導入場面の可能性も広がりました。

また、子育て中の方々と直接関わる機会の多い子育て支援関係の方々による「当事者どうしの対話」と、多様な立場の方々による「まちの中での対話」の両輪でこの取り組みがさらに推進されることが確認できました。



講座の組み立てについて

講座全体の冒頭に、「3枚の葉っぱ」の体験を必ず行なったのですが、受講者自身が参加者の目線で葉っぱの効果を実感する重要な時間になりました。葉っぱの「効果」については、これまでのこまちぷらすの取り組みで実感してきたことを他団体の方々も同様に感じられたということが、講座でのワーク内での発言や本章で前述の参加者アンケートの結果からも確認できました。



また、講座全体に複数のグループワークがあることで、受講者同士の相互理解が深まる効果が見受けられました。講座の最後には、受講者どうしてファシリテーター役と参加者役を務めて「3枚の葉っぱ」の進行演習をするロールプレイングを行なったのですが、普段と違う立場で発言することで他者理解が進むことも確認できました。（例：企業の職員や行政職員の立場で演習に参加し発言をすることで、その立場からのまちづくり視点を考える時間になる等）

養成講座の開催を通してこまちぷらすが得た気付き

講座の実施形態

今回の5カ所における養成講座は、連携団体のスタッフやメンバー向けの内部研修としての開催と、連携団体による公募や声かけでの外部向けの開催との、両方のパターンでの開催となりましたが、それぞれの開催形態ならではの効果が見られました。団体内メンバーで受講する場合は社内研修としてファシリテーション技術の向上につながるだけでなく、普段のコミュニケーションとは別角度から相互理解を深める場にもなりました。また、複数の団体や個人が参加する場合は、この養成講座そのものがネットワーク構築の機会になりました。今後もこの双方に限らず様々なパターンでの養成講座の開催を実施してまいります。

また、今回は5カ所ともに会場での対面開催となり、一部オンラインで欠席者フォローを行いました。今回作成した養成講座のコンテンツはオンラインへのアレンジも可能であることも分かりました。今後は、今回お伝えした対面開催での「3枚の葉っぱ」の進行ポイントに加えて、葉っぱのウェブページの操作方法やオンラインでの進行のポイントも盛り込んだ、オンライン版養成講座のコンテンツも作成し、対面とオンラインの双方の開催を進めていきます。

養成講座受講後の導入とフォロー

今回の養成講座受講者の中から、受講後すぐに自身でのワークショップの開催をされたのは、「みどりなぐらし」と「a little」の2団体でした。この2団体は、団体内のメンバーと一緒に養成講座を受講された点が共通しており、このことから、受講後の自団体への導入には、一緒に受講したメンバーが複数人団体内にいたことが大きく影響することがわかりました。また、「みどりなぐらし」が受講後すぐに導入された背景には、こまちぷらす所有の葉っぱの貸し出したこともとても効果的だったと考えます。

一方で、このワークの魅力や効果を実感し、「自分でもやってみたい」と講座受講時には感じられても、すぐに自身がファシリテーターとして行うことに難しさを感じる方も複数名いらっしゃいました。今後は、講座受講者どうして団体を越えて連携し、トライアルができる機会や、お互いの開催をサポートする関係づくりも必要であると考えます。

また、今回はコロナ禍で難しかったが、講座後や休憩時間に受講者どうして食事をするなど、関係性を深めるような機会を設ける事で、受講後も互いにサポートし合えるような関係性構築ができると考えます。今回の多地域に渡る受講生の皆様との関係構築も含めて、オンラインも活用しながらそのような関係性が築けるような前後の工夫を考えたいと思います。



取り組みの内容と成果

【目的】

・オンライン、オフライン双方でのワークショップに使用できる
ツールとする。



【公開ページ】
取り組みの発信

【非公開ページ】
ワークショップ開催用

葉っぱの声の閲覧
葉っぱの選択
選択した葉っぱへコメント

テストページでのオンラインおしゃべり会開催

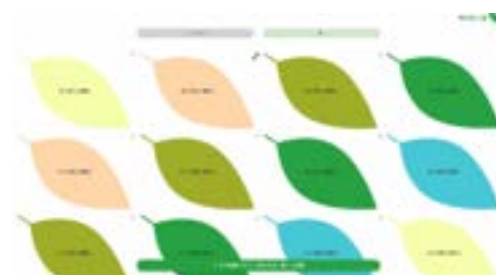
前頁で挙げた2つのページのうち、非公開で作成したワークショップ用のウェブページについては、試作段階で実施にオンラインおしゃべり会で使用し、使いやすさや葉っぱの見やすさなど参加者からの感想をもとに、ページの改善を重ねました。

試用する機会となったオンラインおしゃべり会には、0-1歳児の母親が8名参加し、4回にわたり本ページを閲覧しながらのワークショップを行いました。

試用期間に見えてきた主なポイントは、

- ・スマートフォンでも読みやすいサイズや配置
- ・選んだ葉っぱを相手に伝えやすくする通し番号の記載

でしたが、その他の細かい調整や修正を重ねながら、全4回の中で改善が進み、「使う度に見やすくなった」というご感想をいただきました。



読みやすさ
選びやすさ
色合い
UP♪



ページの完成



試用と打ち合わせを重ね、2021年2月に「co-machi対話プロジェクト」のトップページ(左)と、「3枚の葉っぱ」ワークショップ用ページ(右)が完成いたしました。



完成版のワークショップページを活用したワークショップを2021年3月3日に開催した他、3月28日に開催した本事業の実戦報告会でも参加者の皆様に体験いただきました。また、連携団体のひとつである a little の皆さまも早速活用されました。



←ぜひご覧ください♪

ウェブページ作成を通してこまちぷらすが得た気付き

外出しなくとも誰かと「対話」できること

当初の予定にはなく、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により取り組んだ「オンライン化」でしたが、今回トライアルのおしゃべり会に参加してくださった方々のように、妊娠中、産後すぐ、自身や子どもの体調管理に不安があるといった状況に置かれている方々は、コロナ禍以前も外出に制限のかかっていた方々でもあります。

子どもと二人きりや自分一人で一日中過ごす日々が続く中で、自身の気持ちや体調と相談しながらも、「誰かと話したい」「誰かとつながりたい」という気持ちが満たされる機会はとても重要となり、実際におしゃべり会に参加された方々からは、

「こうして子どもとふたりきりで過ごしているのが自分だけじゃないと知って安心した」

「葉っぱを使うことで、自分の悩み事なども話やすく、聞いてもらえて気持ちが軽くなった」

といった感想をいただきました。

対面でもイベント開催が可能となった後も、今回作成したこのウェブページを今後も積極的に活用して妊娠・出産・子育てにまつわる不安の軽減や、子育て中の方の孤立の解消に活かしていきたいと考えます。



広域的なネットワークを活かした交流



今回、葉っぱの声の収集と選定や、「3枚の葉っぱ」ファシリテーター養成講座の開催にあたっては、様々な団体との連携のもと進めてきました。今回いただいたそれぞれの団体とのご縁を、広域的に横にもつなぐ機会として、連携団体間の交流と学びにもこのウェブページが担えるものは大きいと感じています。

オンライン版でのファシリテーションを行う人が各地域で増えていくことも目指していきたいと思います。

1. 滋賀県長浜市:ながはま市民協働センター

開催概要

- 実施日時:2020年11月4・5日 13:00-16:00
 - 会場:さざなみタウン(長浜市産業文化交流拠点)
 - 参加者:12名
市職員(市民協働・都市計画)
市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
市民活動団体(不登校引きこもり・発達障害の親の会)
子育て支援センター
子育て応援カフェ運営者
- ※ながはま市民協働センターHP・広報誌での告知と個別声かけにて集客



主催者の期待

- ファシリテーション(誰もが意見を自由に交換できる場づくり技術)を学ぶ
- 押し付けにならない形で当事者性を共有できる手段として「3枚の葉っぱ」を活用

参加者の反応



とても安心感があり、自分の気持ちを素直に話すことができた。地域づくりの問題解決や居場所のワークショップのコミュニケーション対話として使用したい。

実際に参加者が組み立てるところまで体験出来て、自分でも出来るかもしれないという自信まで繋がった。

ただ居場所を作るのではなく、しっかり参加者の気持ちをくみ取れる居場所を作りたいと思った。

講座開催後

講座に複数名で参加された長浜市社会福祉協議会にて引きこもりについての研修会に「3枚の葉っぱ」の導入を検討され、こまちぷらすに相談をいただきましたが、新型コロナウイルスの再流行を受けて中止となりました。



今後の活用案と展望

参加された方々からは、子育て支援センターでの自己紹介ワークや、社会福祉協議会での介護者の集い、不登校当事者の会による意見交換会、まちづくりに関するワークショップ等、取り入れた活用案をいただきました。一方で、すぐに自分自身でファシリテーションができるかどうかまだ自信がないというお声も多くいただき、ご相談に応じて実践の機会のフォローを行う他、他地域での受講者を含めて、受講者どうしてバックアップしあえる関係性づくりにも取り組みたいと思います。

2. 神奈川県川崎市:特定非営利活動法人みどりなくらし

開催概要

- 実施日時:2020年11月11・18日 14:00-17:30
- 会場:新城スペース(川崎市中原区)
- 参加者:5名
みどりなくらし 代表、スタッフ
支援センター職員



主催者の期待

- 支援センターやおやこひろばを利用する方々どうしがつながる機会として対話を取り入れたい
- 葉っぱの声を借りることで、お母さんたちが思いを話しやすい機会を作りたい

参加者の反応



安心して不安を吐き出せるには、ツールと声かけが大切だと今回知った。
葉っぱにすることで、お母さんたちが抱えている不安が
爆発する前に出してもらえるようになれば。

葉っぱを選ぶ段階で、具体的な言葉に落としこめる。
なんとなく→「私これだったんだ。」と不安の背景がわかる。
何が不安なのかかわかるだけでも大きい。

自分自身のことを話すと自然と笑顔になれる。
おうちにいて一日中声を出さなかったというようなお母さんが、
話せる機会にするためにもやってみたい。

講座開催後

養成講座の2ヶ月後に、子育てサークルのメンバーを対象に、こまちぷらす葉っぱを使った「体験会」を、講座受講生によるファシリテーションで開催しました。そこで集めた新たな声で、子育てサークルのメンバーでオリジナルの葉っぱを作成。その後地域の子育て中の方に向けてのワークショップを開催しています。



今後の活用案と展望



自団体での開催を重ねながら、様々なテーマの葉っぱが増えていますが、今後は、父親の声や子育てと介護のダブルケアの方の声も集めたいと考えられています。また、いずれは参加者の中からもファシリテーションを担当する方が生まれ、次の対話の場に広がる可能性もあると考えます。

3. 沖縄県北中城村:ベーカリーカフェ cotonowa

開催概要

- 実施日時:2020年11月24・12月14日 10:00-14:30
- 会場:11/24 cotonowa 12/14 参加者自宅
- 参加者:7名
居場所運営者・助産師・子育て支援・性教育等の活動を
されている方々



主催者の期待

- 言葉にしづらい想いや、自分で口にするのが難しい気持ちを、葉っぱというツールを使って引き出せる場作りを学びたい

参加者の反応



誰かの声というところに感動しました。
みんな繋がっているという意識にもなれます。
知らなかった領域の誰かの声が聞けることにも価値があるし、
自分と同じ考えがある人の声は支えになりました。



参加者同士、うちとけた中で実践したのでとてもやりやすかった。
自分がファシリテーターになった場合をシュミレーションする意味でも、
すごく参考になった。フィードバックも安心した雰囲気の中、
率直に言い合えてよかった。

さっそく実践して、すでにあるつながりを活かして沖縄で広げたい。

講座開催後

今回の受講者のうち複数名が所属する団体にて、スタッフ
どうしの対話やイベントに取り入れる企画が進んでいます。

また、この講座を通して参加者どうしの新たなつながりも
生まれました。



今後の活用案と展望



講座の中やアンケートでは、「父親どうしのおしゃべり会」「子どもの発達
に不安のある方の話せる場」「若年妊婦が自分の気持ちを話すきっかけ」
等、様々なアイデアが出ていました。それぞれが試したい場を実現させるた
めに、会場の提供やファシリテーションのサポートなど、参加者間の協力関
係を築きながら広がっていかれたらと思います。

4. 兵庫県西宮市:特定非営利活動法人 a little

開催概要

- 実施日時:2021年2月22・23日 13:30-16:30
- 会場:西宮市男女共同参画センター ウェーブ
- 参加者:14名
NPO法人 a little メンバー
(家事サポート等の活動従事者)



主催者の期待

- (コロナ禍で減ってしまった)団体内での対話の時間を持つこと
- 対話の場の作り方を学ぶ



参加者の反応



自分を深堀りできた。何にアンテナたっているのか、カラフルな葉っぱからあぶりだされたようでした。

自分が話をする時間が確保され、否定や評価をされることなく、結論を急がない環境で話せることはとても幸せなこと。聴く側にまわると、それが以外とできてなくて、仕切ってしまったり、批判してしまいがちになると気づいた。

会話でなく対話に発展させることで、自分の話だけでなく、他者の話を聞くことで気付きが深まると感じた。

講座開催後

講座の翌週には、家事サポートのサポーター養成講座にて、本事業で作成した葉っぱのウェブページを活用してオンラインでの「3枚の葉っぱ」ワークショップを開催しました。また、開催にあたってはメンバーの現状に合わせたグラドルールを設定しました。



今後の活用案と展望

講座参加者からは、「引きこもりの子をもつ親」「子育てと介護のダブルケアの方」「思春期の子を持つ親」「学生」等を対象にやってみたいという案が出た他、団体としても、家事サポートの利用者とサポーターの交流会や、サポーターどうしの交流会、行政や支援関係団体との連携会議に取り入れたいと考えられています。



5. 京都府京都市：京都市総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当

開催概要

- 実施日時：2021年3月25日 9:30-16:30
- 会場：QUESTION（京都信用金庫）
- 参加者：14名
京都市職員（市民協働推進担当・子ども育み局担当・人事部等）
支援関係者（介護施設・居場所づくり・障がい者就労支援等）
学生



主催者の期待

- まちづくりに取り組む市民、学生、市職員が枠を超えて一緒に学び合う対話の場をつくりたい。



参加者の反応



他者を尊重し、自分を客観視することの大切さが今までより深く理解できた。

葉っぱを通して、普段聞けない声を知ることができ、また、その立場に立った考え方など、気付きが得られる。葉っぱが代弁してくれるような気がして、意見を出すハードルを下げ、話しやすい。

発散から始まるのではなく、すでに出ている意見をもとにワークショップをするのがとても新鮮だった。ワークショップに慣れていない方、発言するのが苦手な人でも参加しやすい。区役所でも開催できたらいいと思う。

今後の活用案と展望

- 参加者からは、今後活用したい場面として、
- ・地域の絆を深めるためのワークショップ
 - ・役所、職場での業務改善やワークライフバランスの推進
 - ・パブリックコメントを活かしたワークショップ
 - ・発達障害の啓発プロジェクト

等、多くのアイデアが寄せられました。京都市が「市民協働ファシリテーター」として多くの市職員がファシリテーション研修を受けているという土壌を活かして、様々な場面での利用が広がることを期待しています。

また、パブリックコメント活用についても、声の選定のノウハウをお伝えするなど、引き続き取り組み広がるよう連携させていただけたらと考えております。



1. システム構成

ウェブページに求める役割

本取り組みにて作成したウェブページのシステムには主に以下の2つの役割があり、その目的に沿ってシステムが構成されています。

- ① 「3枚の葉っぱ」ワークショップオンライン開催を可能にする
- ② 「3枚の葉っぱ」ワークショップについての周知を進める媒体とする（開催報告や開催情報発信）

主な構成要素

主な用途 (ページ)	公開/非公開	機能・詳細	管理画面 データ取得	備考
ワークショップ (以降、WS) 開催用	非公開 ※WS開催時に 限定URLを発行	・属性の入力 ・葉っぱの閲覧 ・選択	・WS開催ごとに表示 する葉っぱを設定 ・属性×葉っぱの選択 のデータ取得	
情報発信	公開	・「3枚の葉っぱ」とは ・WS開催情報&報告 ・ファシリ講座開催情報&報告 ・こまちぷらす&連携団体紹介		次年度以降、自主財 源での展開可能とす るためのPR。 問い合わせ先や案内 を添える。

表4:ウェブページの構成要素

2. サイトマップ

サイトは上記のシステム構成に基づいて、主に公開用ページとワークショップ用ページに分けて構築しています。

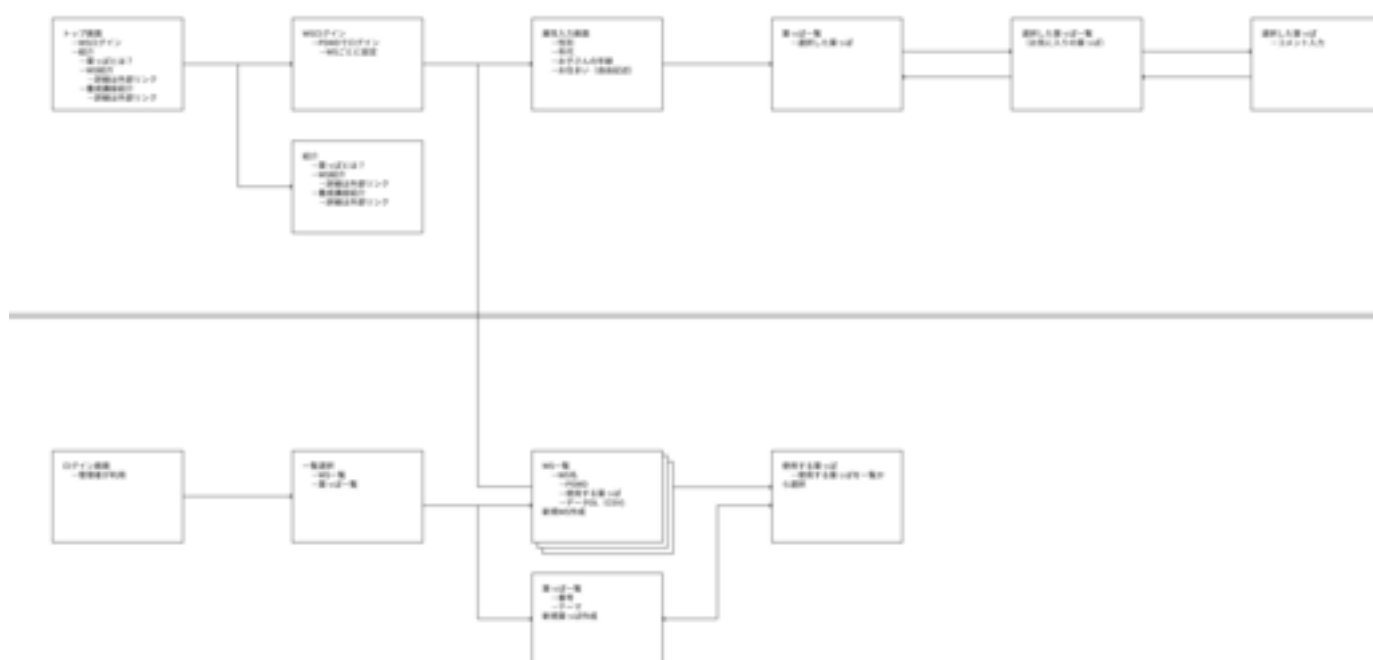


図12: サイトマップ

3. 操作方法

「3枚の葉っぱ」のワークショップをオンラインで実施する際の参加者の操作手順は次の通りです。招待されたURLから、簡単な属性と参加コードの入力によりログインをして、葉っぱの閲覧と選択をします。
(主催者の操作方法は別途研修時にお伝えするので省略します。)

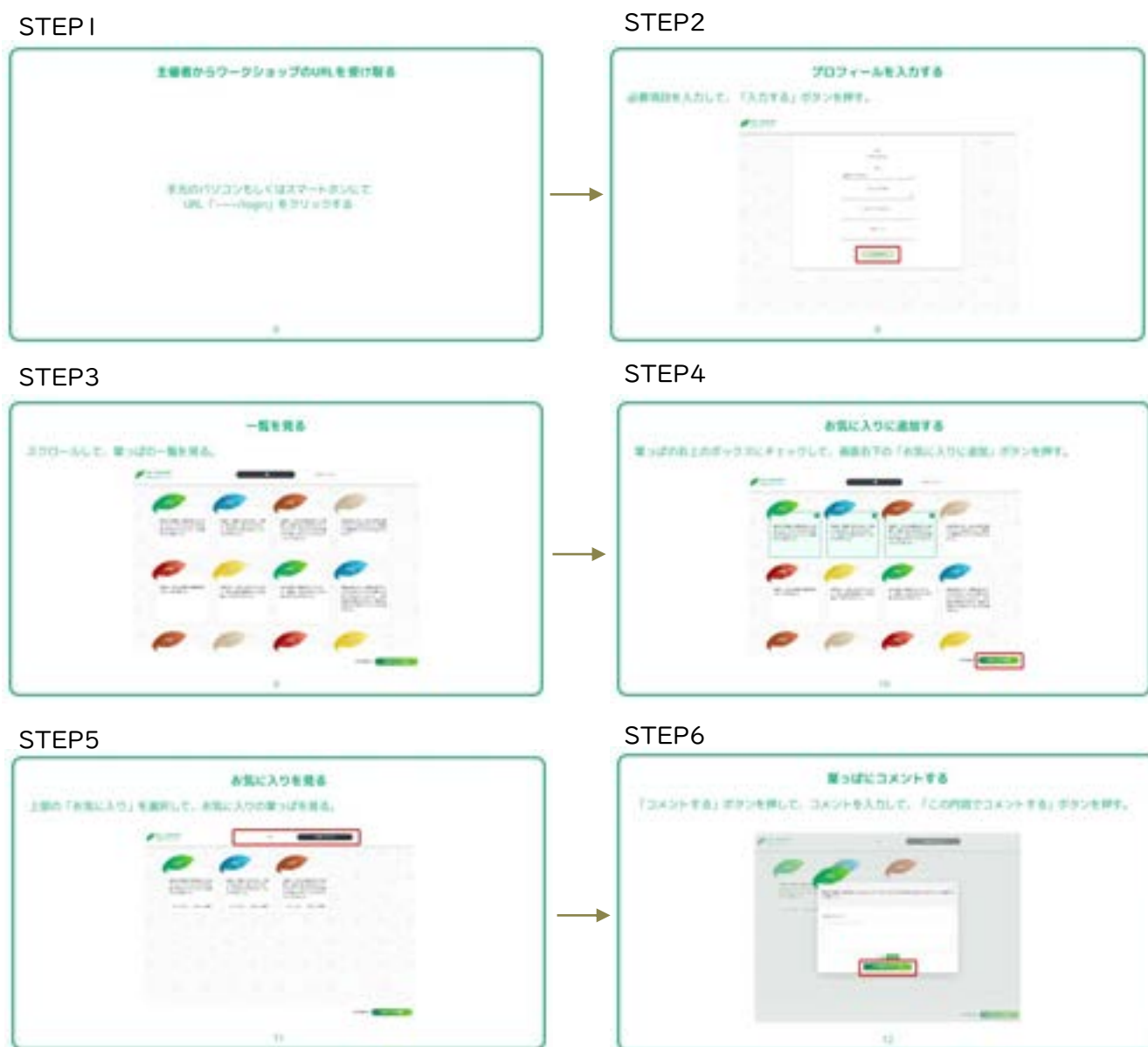


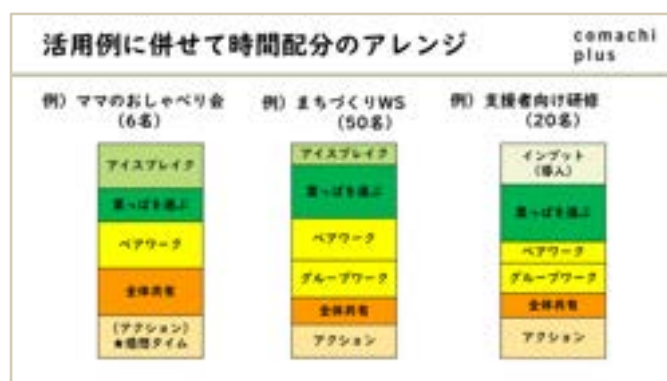
図13:操作方法

尚、ワークショップの中で小さなグループに分かれて対話をする「グループワーク」を実施する際、それぞれが選んだ葉っぱの画面上での共有がスムーズになるよう、各グループにスタッフを配置するか、画面共有を担当する人を置く必要があります。共有された画面上で他の方の葉っぱを選び(『STEP4』)→お気に入りに追加(『STEP5』)をすることで、グループ内の全員が選んだ葉っぱの一覧を見ながらの対話が可能になります。

1. ワークショップ構成について

構成のバリエーション

「3枚の葉っぱ」ワークショップは、第4章で示した通り様々な場面で活用が可能です。



今回5カ所で開催したファシリテーション養成講座において、参加者の皆様から多様な開催イメージが発表されました。

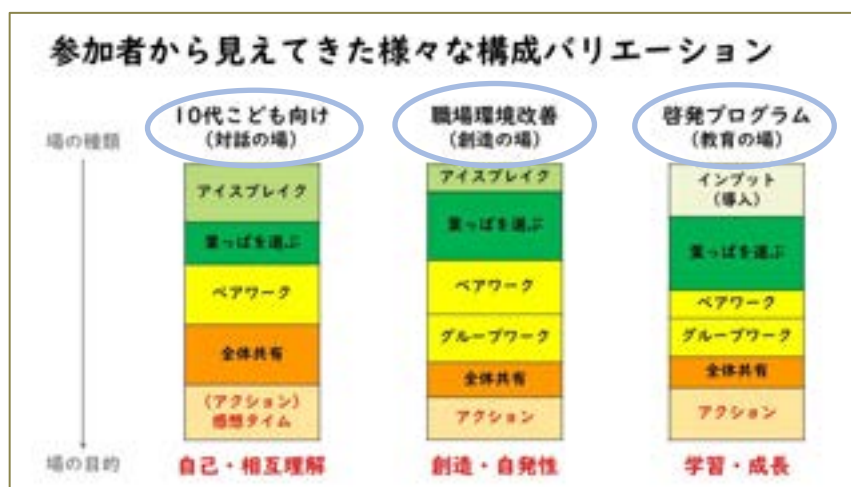
職場のワークライフバランス推進のためのワークショップに活用したい。

行政職員と企業が集まるワークショップを企画し新たなまちの未来像と協働の在り方を探りたい。

学生(10代子どもたち向け)に開催し、違う世代の違う視点から自己理解・他者理解を進めるような対話の場をつくりたい。

発達障害についての啓発プログラムの中に取り入れたい。

それぞれの活用例や場の目的に合わせて、もともとの型をベースに、以下のように自分の関心や課題感に引き寄せた様々な構成が生まれます。



主催者の「自分ごと」から構成できることが、このワークショップの大きな魅力です。「誰かのこと」ではなく、「自分のこと」として、主催者も参加者もワークショップの場に参加し展開していくことが重要です。

2. ファシリテーションスキルについて

地域内で対話の輪を広げていくファシリテーション

「3枚の葉っぱ」ワークショップの養成講座に参加した方が、受講後にサークル・職場・まちの中でワークショップを実施すると、参加者の中から、「自身もワークショップを開催したい」という方が現れることもあります。そういった方々を対象に次の養成講座を開催し、ファシリテーターが増え、更にこの対話の輪を広げていくことにもつながっていきたいと考えます。

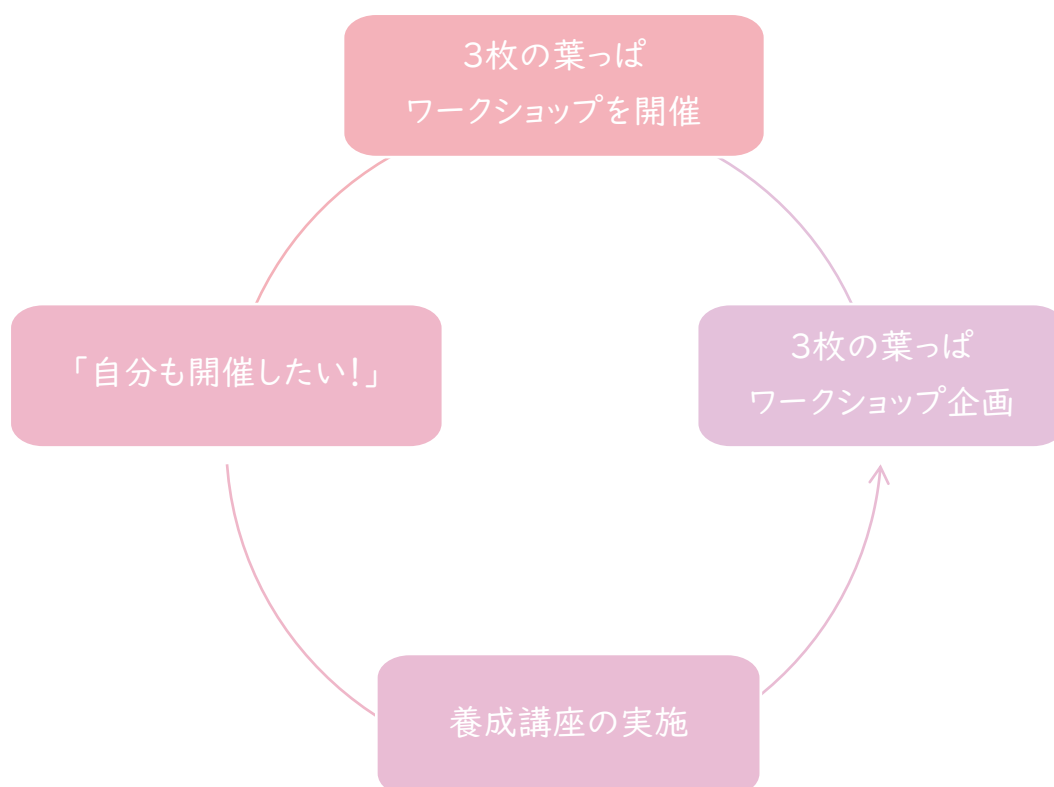
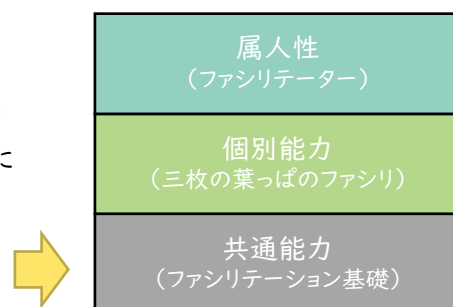


図14:ファシリテーションスキルの養成を通じた地域内での対話の広がり

これまで出会うことがなかった声に触れ、その角度から物事を考え、異なる意見にも触れながら対話する面白さを知る人が多い地域は、きっと生きやすい場、暮らしやすい地域になります。

上記のような輪が広がることは、すなわち様々な場において基礎となるファシリテーションスキル(右図の「共通能力」)を持った人が増えていることにつながります。「3枚の葉っぱ」ワークショップに限らず様々な場面において安心して対話ができる場が増えるでしょう。

この循環が、子育てにおける不安や孤立感の解消にもつながります。



3. 葉っぱのアップデートについて

オリジナル葉っぱの開発

地域に埋もれた声を拾う

「3枚の葉っぱ」ワークショップにおいて、使用する葉っぱの内容や組み合わせが重要なポイントになります。主催者が自身の開催する場の目的に応じて、葉っぱの声を拾うところから組み立てることも可能です。実際に、ファシリテーター養成講座を受講された方々から「〇〇に関する葉っぱもあったらいいな」という声も多くお聞きました。

こまちぷらすにおいては、今回本事業への取り組みを通してそれまでの葉っぱになかった声を集めました（詳細：第2章参照）、地域にはまだまだ様々な声が埋もれています。今回ご一緒いただいた連携団体の皆様が地域の声を集められ、「オリジナルの葉っぱ」を作成されることで、共に新たな声に出会いながら、その地域や団体の特性にあった「対話の場」が作られることと思います。

これまで集めてきた声

多胎児・医療ケア児・
聞こえない母親の声・
管理職の声・育休中の方の声・
海外の母親の声
障がい・介護等 計28種類

今回集めた声

産前産後
父親
祖父母
外国出身の両親



開発のプロセスが「参加の場」に

声を集め、葉っぱにする声を選び、さらにカードにするといった葉っぱをつくる過程そのものが様々な市民の「参加の場」になります。

葉っぱの開発に、市民（当事者や当事者以外）・行政・支援者・民間企業等様々な立場の方が関わられるような設計の工夫も重要です。今後各地の皆さんとこの葉っぱをアップデートし続けたいと思います。開発時は是非ご相談ください。

開発プロセスにおける参加の機会

- ①【声を出す】
アンケートへやパブリックコメントへの回答など、自分の意見や思いを言葉にする。
- ②【選ぶ】
集めた数十～数千の声から葉っぱにする声を選定するプロセスの中で、葉っぱに選定されない声にも触れながら、様々な立場の方と議論する。
- ③【工作する】
葉っぱの形に画用紙を切り、声を貼る等のカードを作成する過程へ参加。

4. ウェブページの機能拡張について

アカウント管理による分析・葉っぱの組み合わせ作成

現在のウェブページでは、葉っぱについての説明機能及びワークショップ開催機能を搭載していますが、今後に向けて、さらに追加していきたい機能についてお伝えします。

葉っぱの選択とコメントの分析機能

このウェブページの操作を通して、「だれがどのような声を選んだか、どのようなコメントを残したか」の傾向を読み取り、分析することで、今後の子育て環境の改善や孤立を防ぐ研究等にもつなげらえると考えております。今回は開発には織り込んでいませんが今後の取り組み課題の一つです。

「誰がどのように声を選んだか」



「どのようなコメントを残したか」



養成講座受講者による葉っぱの組み合わせ作成

また、養成講座を受講した皆さんにも、この葉っぱのウェブページを活用していただき、オンラインでの「3枚の葉っぱ」を実施していただける体制も今後は整えていきたいと考えます。現在は管理者であるこまちぷらすのみが設定できる「葉っぱの選択とWS用ページのURL作成」を、受講生の皆さんにも操作できるようにすることも今後加えたい機能です。

養成講座受講者が、ワークショップのために自分で葉っぱの組み合わせをつくる



5. ウェブページの維持継続について

ビジネスモデルの検討

この「3枚の葉っぱワークショップ」のウェブページを維持継続し、さらに本章で挙げた機能拡張に今後取り組んでいくためには、事業継続のための基盤づくりが必要です。

維持継続のためのビジネスモデル



養成講座の実施や葉っぱの開発等、「3枚の葉っぱ」のワークショップの実施を広げる際の収入や、各地で集めた声や実施されたワークショップの様子分析調査からの収入等でこの仕組みを支えます。

今後は、このウェブページから「新たな葉っぱ」となる声を集められる仕組みをつくる等、一層の工夫を重ね、より多様な方がこの仕組みに参加できるようにしたいと思います。対話の場が各地域に広がり、その地域を豊かにするだけでなく、そこで集まった声を活用することで、結果的にいろんな「こと・もの・サービス」開発につながることあると考えます。

複数の収入源をもとに、この仕組みそのもの及びウェブページの維持継続を支え、対話の場をつくる人や対話の場に参加する人への費用負担を可能な限り下げられるよう、検討していきたいと思います。



おわりに

2014年11-12月、「よこはま子育てワクワク作戦」(2015年解散)の皆さまと一緒に、横浜市内の子育て中の方々の声をお茶会やオンラインアンケート等を通じて1562件集めました。横浜市の「子ども・子育て支援事業計画」の振り返りに当事者の多くの声が反映され、私たちの住む地域が今よりも子育てがしやすくなり、孤立した子育てが減ることを願い、集めた声を横浜市子ども青年局に届けました。

子育て中の方々が語ってくださった「あったらいいな。」「不安だ。」「困っている。」の声を、行政に届けて終わりてよいのだろうか、行政や支援関係者が解決してくれるのを待つだけでよいのだろうか、声を届けた後、そんな疑問が残りました。「届けて終わりにするのではなく自分たちできることをここから考えたい」と、「みんなで話そう! 横浜での子育てワイワイ会議実行員会」(以下、ワイワイ会議)を横浜市内のNPOの方々と立ち上げ、集めた声を葉っぱの形のカードに載せ、子育て中の皆さんと私たちとで、カードを手に取りながら様々な声に触れ、感じたことを話し合う機会を持ちました。これが「葉っぱ」の誕生です。

その後、ワイワイ会議で開発した子育ての葉っぱとは別に、こまちぷらす独自の取り組みによりさらなる声の収集や、「3枚の葉っぱ」というワークショップの設計を進めてきたのですが、上記の2014-15年の経験があってこそその本事業でもありました。

子育て当事者ひとりひとりのつぶやきでもある「葉っぱ」の多くは、子育て中の方々が抱く不安感やモヤモヤを代弁してくれ、「共感できる相手がいる心強さ」をこれまで多くの方に与えてくれました。葉っぱに目を通すことで誰かの存在を感じ、その葉っぱの言葉を借りて自身の思いを話せることで、状況そのものは変えられなくとも、気持ちが軽くなり、安心できるものだということに、私たち自身も「3枚の葉っぱ」を通した対話の中で強く感じてきました。

また、共感できる相手を得る安心感だけでなく、新たな気づきとの出会いも、この葉っぱは私たちに与えてくれます。子育てのテーマのみならず、障がい、介護等、生きていくとそれぞれが出会うことになる「様々な事情をもつ当事者の声」に触れられる機会が地域に多くあり、ゆるやかに互いに関心を持ちあえることが、様々な方にとって生きやすい社会になると考えます。そのきっかけのひとつに、この「3枚の葉っぱ」のワークがなれたのなら嬉しいですし、その可能性を信じて、私たちもここまで取り組みを重ねてきました。

今回、「声の収集」「ファシリテーター養成講座」「ウェブページの作成」を、様々な地域で様々な活動をされる皆様にご一緒いただくことで、対話のもつ力や「3枚の葉っぱ」の可能性について、多角的に、そして深く考える機会を頂戴しました。今後、今回ご一緒いただいた皆様、これからご縁をいただく皆様にご一緒いただきながら、「3枚の葉っぱ」の取り組みをさらに育てていける期待と嬉しさでいっぱいです。

葉っぱの誕生から共に取り組んできたワイワイ会議の皆さま、本事業にご一緒くださった連携団体の皆さま、講座にご参加くださった皆様、そして、今回の取り組み全般にわたり多大なるご協力をいただきました株式会社イミカ原田さんに、心より御礼申し上げます。



本書を手にとってくださった皆様へ

こまちぷらすでは、本書にて紹介した「3枚の葉っぱ」を通じた「対話」が様々な地域に広がるよう、ファシリテーター養成講座を2021年度以降もさらに充実させて実施していきます。また、こまちぷらすスタッフが皆様の場に邪魔して、ファシリテーションを担当するワークショップ開催や、葉っぱの作成のお手伝いなども行っていきます。

上記取り組みにご関心のおありの方は、ぜひこまちぷらすまでご連絡ください。講座のご案内などお送りいたします。こまちぷらすのSNSでも随時ご案内いたしますので、フォローをお願いいたします。

本書を手にとってくださった皆様と「対話」について共に考える機会がありますことを心より楽しみにしております。

こまちカフェ
facebook



こまちぷらす
facebook



居場所に対話の機会を！

WAM助成 co-machi対話プロジェクト 実施報告書

企画・編集 認定特定非営利活動法人 こまちぷらす
作成協力 株式会社イミカ
発行日 2021年3月31日初版
発行者 認定特定非営利活動法人 こまちぷらす 理事長 森 祐美子
横浜市戸塚区戸塚町145-6 奈良ビル2F

【内容についてのお問い合わせ】

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

HP : <http://comachiplus.org/>

Email : staff@comachiplus.org Tel : 045-443-6700

※本書の本文及び写真等をご使用される場合は、当法人までご一報ください。

本書は 令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 の助成をうけて作成いたしました。



子育てを、まちでプラスに。

**comachi
plus**

